

## 障害者自立支援協議会の取組みについて

### I 仙台市自立支援協議会について

#### 1 本会について

- ・令和5年度の仙台市障害者自立支援協議会では、過年度に引き続き下記3点を目標として各般の取組みを行う。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 障害児者が地域の中で孤立したり、支援につながらない等の事態を生み出さないための相談支援体制の質的・量的拡充</li> <li>(2) 各区障害者自立支援協議会の活動及び地域部会での協議を通じた地域課題解決に向けた取組みの汎化</li> <li>(3) 上記2点を確保するための人材育成に係る研修体系等の確立</li> </ul> |
|---|

- ・(1)については、主に障害者基幹相談支援センター、地域生活支援拠点、計画相談支援の取組み等をもとに課題を整理し、障害児者のニーズを充足するために必要となる相談支援体制のあり方について検討を行う。
- ・(2)(3)については、仙台市自立支援協議会のもとに地域部会、評価・研修部会を設置し、各区障害者自立支援協議会の取組みなどから見出された課題等を整理し、支援上の重要な視点や効果的な取組みの汎化及び人材育成のあり方について検討を行う。
- ・各部会等における取組みについては、本会において報告を行い、各委員の専門的・実践的見地から意見を受け、必要な改善を行う。

#### 2 地域部会について

##### (1) 検討内容1－多機関協働による相談支援体制について

- ① サービス移行期における切れ目のない支援のあり方について
  - 学齢期から成人期等の移行期における利用者の環境変化
  - 学齢から成人、障害から介護へのスムーズな支援の引継ぎ
  - 支援の移行に向けた顔の見える関係作り及び互いの役割や限界を理解し支援すること
- ② 住まいの問題にかかる支援体制のあり方について
  - 行動障害や知的障害が重い方、触法ケース、緊急連絡先がない方等の住まいの確保について
- ③ 主任相談支援専門員が活躍、機能できるような仕組み作り等
  - 区自立協での主任相談支援専門員による講話等の取組み
- ④ 区自立協の安定的な運営及び活性化に向けた取組み
  - 周知方法の工夫、参加機関・団体を増やしていくこと等
  - 当事者の参画について

|   |
|---|
| <p>➡令和5年度は、より具体的な議論が展開されるよう、テーマに応じたゲストスピーカー（例：地域包括支援センター、学校、居住支援法人、主任相談支援専門員など）を招聘し、専門的な取組み、実践の中でみえる当事者の困りごとや悩み等について共有する。</p> |
|---|

## (2) 検討内容2 一日中サービス支援型指定共同生活援助における実施状況の報告及び評価について

- ・ 標記サービスは、障害者の重度化や高齢化を背景に平成30年4月に創設された。
- ・ このサービスでは、24時間体制の人員配置が必要であり、手厚いケアを受けることができるという利点はあるが、支援がグループホーム内で完結するため、運用によっては、当事者と地域とのつながりを狭めてしまうリスクを有している。
- ・ こうした事態を避けるために、障害者総合支援法第89条の3第1項に規定する協議会に対して定期的に事業の実施状況を報告し、その評価を受けるとともに、必要な要望、助言を聞く機会を設けなければならないこととされている。
- ・ 本市では、地域部会を協議の場として位置づけ、令和4年度よりこの取組みを開始した。令和5年度については下記事業所を対象に評価等を行う。

### 【新規】

- ・ サニースポット八乙女（令和4年3月1日開所）
- ・ ソーシャルインクルー仙台岩切（令和4年8月1日開所）

### 【継続】

- ・ ぐりーんる一む小田原（令和2年12月1日開所）
- ・ Tagomaru ハウス（令和元年5月1日開所）

## 3 評価・研修部会について

### (1) 検討内容1 仙台市障害者ケアマネジメント従事者養成研修（基礎研修・実践研修）

- 獲得目標の柱（個別支援・地域支援・人材育成）に沿った研修企画
- 各区自立協の人材育成，他の研修（法定研修等）との連動
- 研修の方向性（研修内容の更新，研修対象の検討）

### (2) 検討内容2 障害者相談支援事業所運営自己評価

- 自己評価の評価項目（内容）の精査，評価水準（目安）の設定
- 自己評価，アクションプランに基づく，各委託事業所の目標設定

### (3) 検討内容3 障害者相談支援事業所間のピア研修の実施状況，今後の実施の方向性

- 自己評価を共有する会等のPDCAサイクルを回した事業所運営にかかる取組み

➡令和5年度は，（1）～（3）の取組みについて，これまでの経過や実施による効果等を振り返り，研修体系として評価を行う。

### \* 市自立協のスケジュール

|      |     |         |
|------|-----|---------|
| 令和5年 | 8月  | 第1回本会   |
|      | 10月 | 第1回地域部会 |
|      | 12月 | 評価・研修部会 |
| 令和6年 | 2月  | 第2回地域部会 |
|      | 3月  | 第2回本会   |

## Ⅱ 各区障害者自立支援協議会について

### 1 青葉区障害者自立支援協議会

#### (1) 過年度までの取組みを通じた課題

- これまでの活動を通して、様々な場で区自立協や障害の普及啓発、各協議体の活動を行うことができた。令和5年度の区内の障害者支援の課題として①【重点事項】重点対象者支援の体制整備、②世帯支援(8050問題等)に伴う支援者連携の必要性、③転出入が多く支援の継続性が損なわれる、④児童、障害、高齢でのサービス移行期に支援の困難感が生じる、⑤地域とのつながりの希薄化による障害者の孤立等が挙げられる。今後、区自立協の活動が課題解決や特に「【重点事項】重点対象者を支える体制づくり」につながり、実際に体制整備が進んでいるのか、新たな課題はないか等を評価し、相談支援体制の強化に向けた活動を行う必要がある。また、重点対象者を支えるための体制整備として、障害だけでなく他分野も含めた地域に既にあるネットワークを活かし、障害に伴う支援を地域のネットワークに組み込み、地域で支える体制づくりが必要。そのため、各支援者や地域に対し区自立協の活動をどう広げていくか検討し実施することが必要。
- 上記課題④について、特に、放課後デイサービスの利用者等が生活介護や就労支援等へ移行した後に事業所から自宅に戻ってから家族が帰宅するまでの間の居場所がないこと、65歳以上となり障害福祉サービスから介護保険サービスに切り替わる際にサービスや支援内容に支援者や本人がギャップを感じ支援の困難感が生じる声があった。成人の居場所支援や高齢分野への移行と連携について、フォーマル/インフォーマルな資源を活かし区自立協でできることを協議し実施していく必要がある。
- H31～R3年度に行った、精神保健福祉部会における「”支援者のための”振り返りシート」の有効活用ができていない。区自立協を通して、活用が進まない要因の分析、連絡会議や実務者ネットワーク会議を活かした周知等を行い、活用率の向上を目指す必要がある。
- 区自立協内にて区自立協の取組みを迅速に分かりやすく周知するためにSNSの活用について意見があった。実際にどのような場面でどうSNSを活用したいのか、SNS必要性について区自立協内にて協議し、必要性が見られた場合は具体的な運用方法について検討していく。

(2) 令和5年度の取組み

| 会議                   | 年間実施<br>予定回数 | 主な内容・議題等（簡潔に記載）   |
|----------------------|--------------|---|
| ①<br>全体協議会           | 1回           | 青葉区高齢者障害者地域会議（※青葉区での呼称）として、令和3年度から令和5年度まで3年間の共通テーマ「人のつながりを広げる取組み～やさしさを分けあえるまちへ～」を設定。令和5年度は委員へ事前アンケートを実施し、対面で「一緒にできること」「実際に協働したこと」等を共有し、障害と高齢で連携しできることを協議する。   |
| ②<br>実務者ネットワーク会議     | 2回           | サポネットあおばのつどい（※青葉区での呼称）として、令和5年7月21日に「身近な機関同士で、気軽に楽しくつながりづくり」をテーマに、グループワークや事業所PRを実施。障害分野の他、高齢分野等の区内の様々な支援機関へ周知し44の事業所が参加。名刺交換の時間もあり、多種多様な分野の支援者が顔の見える関係をつくり様々な話題を共有する場となった。アンケートの結果からも満足度が高かった。  |
| ③<br>障害者相談支援事業所等連絡会議 | 11回          | 話題提供、重点対象者ケースレビュー、事例検討をローテーションにて実施。毎回20名前後の参加。令和5年度は3回実施。ケースレビューの他、指定特定相談支援事業所のケースにて事例検討を実施。今年度より、障害と高齢分野の連携強化や障害理解を目的とし地域包括支援センターにも周知し参加を促す。事例検討におけるGSVのルールについては毎回確認。第4回ではGSVに関する講話、事例検討を行う。   |
| ④<br>プロジェクトチーム       | 各チーム<br>12回  | <p>①地域展開チーム（国見フォロー）<br/>令和5年度より国見地区周辺の支援者（高齢、障害、児童、医療分野等）を対象にくにみゆるっとつながろう会を年5回実施予定。地域共生をテーマに多分野で協議し、地域でできることの検討、実施を行う。</p> <p>②地域展開チーム（葉山）<br/>令和5～7年の3年計画で実施。令和5年度は葉山地区の障害、高齢、市民センター等の支援機関にヒアリング。課題を抽出し、課題解決に向けて地域と連携しできることを検討する。また、サポネットあおばの周知や障害理解の啓発、区内相談機関の紹介を目的とし、当チームがリーダーとなりサポネットあおばとして青葉区民祭りへの出展を行う。</p> <p>③地域展開チーム（宮総）<br/>令和5年度は高齢分野へのヒアリングを実施し包括圏域会議へ出席。課題を整理しつつ、すでにある地域のネットワークを活かし、サポネットあおばと他分野や地域とのネットワーク強化、相談しやすい関係づくりを目的に活動する。</p> |
| ⑤<br>運営会議            | 12回          | 運営会議にて各会議体の進捗確認、方向性の検討、市自立協での報告内容等について確認。   |

## 2 宮城野区障害者自立支援協議会

### (1) 過年度までの取組みを通じての課題

- ・相談傾向と課題の共有にて抽出された地域課題：8050 問題，チーム支援(地域や他分野との連携)，サービスや社会資源とのマッチングの難しさ，障害者の高齢化(介護保険サービスへの移行等)。様々なライフステージや障害特性における課題が散見される。宮城野区障害者自立支援協議会として，当事者の地域生活がより良いものとなるよう，地域の方とも協力していく。
- ・相談支援事業所等連絡会議に参加する指定特定相談支援事業所は増えてはいるが，特定の事業所に限られている。活動内容をより多くの方に参加してもらえるものとなるよう検討し，指定特定相談支援事業所をバックアップできる体制を強化していく。
- ・宮城野区障害者自立支援協議会がスタートして9年目。これまでの活動の成果を振り返り，課題の整理を行いながらさらなる活動の方向性を見出していく。

### (2) 令和5年度取組み

| 会議                   | 年間実施<br>予定回数 | 主な内容・議題等（簡潔に記載）   |
|----------------------|--------------|---|
| ①<br>全体協議会           | 1回           | 区地域ケア会議と合同開催。「ちょっとした気遣いで，社会的孤立を防ぐ地域づくり」をテーマに事例報告を実施。また，自立協の成果と課題を報告。  |
| ②<br>実務者ネットワーク会議     | 7回           | ○全体会 1回<br>テーマ「(仮) 宮城野区障害者自立支援協議会のこれまでとこれからについて」<br>○エリア会<br>・幸町周辺エリア：未定<br>・岩切・高砂周辺エリア：未定<br>・鶴ヶ谷周辺エリア：健康そうだん会を開催。 |
| ③<br>障害者相談支援事業所等連絡会議 | 12回          | ・相談傾向と課題の共有，ケースレビュー<br>・事例検討<br>・意見交換会，勉強会  |
| ④<br>プロジェクトチーム       | 0回           | なし。   |
| ⑤<br>運営会議            | 12回          | 各会議体の進捗管理，課題解決に向けて区自立支援協議会全体の活動の検討。また，これまでの振り返りに取り組む。   |

### 3 若林区障害者自立支援協議会

#### (1) 過年度までの取組みを通じた課題

- ・ GSV の実践等を通し、支援者の技術の習得・向上を目指す。またより多くの相談支援事業所が参加・相談しやすい場づくりを意識し、更なる連携強化を目指す。沿岸部・田園地帯を中心に、8050 問題が地域課題としてあがっており、高齢分野と連携して、見守り体制や支援体制の整備を目指していく。

#### (2) 令和5年度の取組み

| 会議                   | 年間実施<br>予定回数 | 主な内容・議題等（簡潔に記載）   |
|----------------------|--------------|---|
| ①<br>全体協議会           | 1 回          | 令和3年度より3か年で8050問題への取組みを行っている。区保健師と相談員により8050問題に関するチラシを民生委員児童委員へ配布と説明を実施（全9地区実施済み）、地域の見守りと、相談先の周知を目指した普及啓発活動を行った。また既存の連坊地区社協の相談会へ障害側（区と委託事業所）が参画した取組みを経て、地区のNPO法人（シャロームの会）が今後担い手として申し出があり、引継ぎを行っていく。 |
| ②<br>実務者ネットワーク会議     | 2 回          | 第1回目は各事業所1～3年目の新任期職員を参加対象者として実施予定。各事業所のPR、グループトークなどを通し事業所間の連携促進、新任者支援を目的としている。第2回目は社会資源のマッピング作業を予定。   |
| ③<br>障害者相談支援事業所等連絡会議 | 10 回         | 新任者に向けた自立協の取組みの振り返り、連携強化を目指したペーパーワークや講義を実施。相談支援事業所間の連携に特化したテーマ設定と早めの周知により、事業所の参加を増やすことができた。下半期は地域包括と合同連絡会を行い8050問題に関する事例検討や、GSVの講義及び事例検討を行う予定。  |
| ④<br>プロジェクトチーム       | 11 回         | 【GAっTSUプロジェクト】“学校の先生と福祉側の支援者が相談し合える関係づくりを促進していく”ことを目標に掲げ、令和4年度から活動始動。月1回程度メンバーで打ち合わせを行い今年度は学校と繋がるためのツールとして教員、保護者、支援者等に役立つ冊子を作成予定。   |
|                      | その他の活動       | 【区民まつり】障害理解、区自立協の活動PRを目的とした展示やクイズ、ノベルティ配布等を予定。  |
| ⑤<br>運営会議            | 12 回         | 上記各種会議体について、報告、協議を実施。   |

5月には自立支援協議会・地域包括支援センター連絡会議の合同会議を行い、情報共有とグループワークを実施。障害・高齢分野の顔の見える関係に向けた取組みを行っている。

また今年度は、相談支援事業所連絡会の企画運営に、指定特定相談支援事業所の相談支援専門員が参画し、より事業所の実態やニーズに沿った実施内容の検討、早期の企画と日程周知、企画の意図を担当者から事業所に直接説明することなどにより、指定特定相談支援事業所の参加が増えている。

#### 4 太白区障害者自立支援協議会

##### (1) 過年度までの取組みを通じての課題

- ・太白区自立支援協議会の目標「本人や地域を含めた話し合いの場（個別ケア会議）を推進していく」が達成できていない。達成のためのプロセスも不明確である。
- ・様々な課題が挙げられているものの、地域課題として整理したり、解決に向けて取り組むことができていない。

##### (2) 令和5年度の取組み

| 会議                           | 年間実施<br>予定回数 | 主な内容・議題等（簡潔に記載）   |
|------------------------------|--------------|---|
| ①<br>全体協議会                   | 1回           | 未定  |
| ②<br>実務者ネット<br>ワーク会<br>議     | 12回          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・なごやかネット（6圏域）10回：地域資源，地域課題について</li> <li>・ふれあいネット（6圏域）10回：地域資源，地域課題について</li> <li>・全体会2回： 買い物に関する課題について</li> </ul>                       |
| ③<br>障害者相談<br>支援事業所<br>等連絡会議 | 12回          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケースレビュー（委託相談支援事業所，専門機関等）8回：個別支援から共通する課題を見出せるよう試行錯誤中。</li> <li>・情報交換会（委託相談支援事業所，指定特定相談支援事業所等）4回：相談支援全体のスキルアップを図れるよう事例検討を予定。</li> </ul> |
| ④<br>プロジェクト<br>チーム           | 10回          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物課題解決プロジェクト<br/>買い物に関する課題を整理し，当事者と一緒に解決に取り組む。</li> <li>・当事者講師研修<br/>当事者を主体とした支援とは何かを当事者講師から学ぶ。当事者と企画運営を行う。</li> </ul>               |
| ⑤<br>運営会議                    | 12回          | 各会議体の進捗確認   |

## 5 泉区障害者自立支援協議会

### (1) 過年度までの取組みを通じた課題

- ・全体会議：障害分野・高齢分野の下部会議体及び上部会議体である仙台市との連動性が課題。
- ・障害者相談支援事業所等連絡会議：今年度は『住まいに課題のあるケース』をテーマとし、各支援機関が提出した住まいに課題のある事例から共通する要素を抽出。今後の展開が課題。また、参加する事業所が固定化していることも課題。
- ・他区会議体への参加、評価研修部会・地域部会・地域生活支援拠点事業との連動性は図られたが、仙台市との連動性が今後の課題。

### (2) 令和5年度の取組み

| 会議                   | 年間実施<br>予定回数 | 主な内容・議題等（簡潔に記載）  |
|----------------------|--------------|--|
| ①<br>全体協議会           | 1回           | 地域ケア会議と合同で10/26(木)に実施予定。令和3年度から「泉区内の地域連携・関係機関の緊密化～3年後の泉区地域包括ケアシステム構築への提言を目指して～」をテーマに、3か年計画で実施しており、今年度は最終年となる。グループワークにて事例検討を実施予定。   |
| ②<br>実務者ネットワーク会議     | 6回           | 支援機関連携を主な目標として活動。市内各区の事業所が参加。泉区内の参加事業所増加を目指し、対象を絞って直接チラシを送付し、参加事業所の増加を目指す。住まいの課題の観点から、去年に続きファイナンシャルプランナーの講話、事例検討を計画している。   |
| ③<br>障害者相談支援事業所等連絡会議 | 6回           | 支援者のスキルアップ及び地域課題抽出を主な目標として活動。事業所の参加率向上を目指し、興味関心のあるテーマを募り内容を計画している。また、内容の充実を図ること、無理なく継続して進めることを目的として、今年度より開催回数を2か月に1回とした。前年度の聞き取りから事例共有の希望があり、住まいの課題に関連した事例をもとに“長く住み続けるために”必要なポイントを出し合った。 |
| ④<br>プロジェクトチーム       | 0回           | 実施予定なし。  |
| ⑤<br>運営会議            | 12回          | 各会議体が円滑に運営できるよう進捗管理すること、市・他区協議会との連動性を意識することを主な目標として活動。地域への区自立協の認知度の向上を目指し、広報活動を行い、その結果を運営会議にて共有している。   |

### [本会における協議事項]

仙台市障害者自立支援協議会および各区障害者自立支援協議会の取組み方針や進捗等を踏まえ、当事者主体の観点から、より効果的な取組みを行うために必要となる視点や考え方について、各委員のそれぞれの立場からご意見をいただきたい。